



民主

PRESS MINSHU

2010.3.2

号外岩手2区版

民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

連携して明日の久慈を!

民主党岩手県第2区総支部

〒028-0064 久慈市八日町2-8
TEL 0194-52-0221 FAX 0194-52-3677
http://hata-kouji.com

笑顔あふれる日本、岩手、久慈へ!!!

国民の生活が第一へ。

連日、2010年度
予算委員会や党務、ま
た、地元市長選挙の応
援とフル回転の日程を
こなす畑こうじ衆議院
議員は、「予算委員会
や党首討論でも野党の
質問は「政治とお金」



予算委員会で初質問に立つ畑こうじ衆議院議員

の問題ばかりで、国民の生活に直結する問題の議論をしない野党の姿勢に疑問を感じています。確かに、「政治とお金」の問題は司法の判断を仰ぎながら、政治全体の問題として捉えなければなりません。その時に説明を求めるといことは国会で決めなければならぬと思います。また、専門の世論調査会社が無い日本での、世論調査の過剰報道にも疑問を感じています。国会内でも様々な情報が交錯し、今夏の参議院選挙を控え憶測が憶測を呼ぶという悪循環が生まれています。いま、大事なことは誹謗、中傷では無く、政権交代を望んだ多くの国民の期待に応えるべく、国民の生活を第一と考える論争をし、公約を実現しなければなりません。私を選んでくださった岩手2区の皆さまにもご心配をおかけしていますが、しっかりと仕事をしたいと思っています。どうぞ、変わらぬご支持をお願いいたします。」と笑顔で近況を語った。

久慈市長選挙

市民派遠藤じょうじ氏を推薦

民主党岩手県連は、14日投票が行われる久慈市長選挙に立候補を予定して

いる遠藤じょうじ氏を推薦する。遠藤氏は久慈市生まれで、大学卒業後、岩手県



毎朝街頭から支持を訴える遠藤じょうじ氏

市に奉職し総務課、人事課、土木部、農政課、公聴広報課、振興局と地方行政の要職で働いてきた経歴を持つ。工藤堅太郎県連代表は、「地方分権が推進され、今まで以上に、国、県、市が連携した地域づくりをしなければならぬ。そういう意味でも遠藤氏は地方行政に対する知識、経験を兼ね備えた人材であると判断し推薦申し上げた。」と語った。

また、同郷の畑こうじ衆議院議員は、「久慈の発展は県北沿岸振興の要であるとの共通認識で歩む遠藤氏との連携は不可欠であります。さらには、地方行政の要職部門を歩んできた経験が、大きく変わろうとしている久慈市にとって大事な人材であり、市民目線での誠実な市政を執行できると信じている。」と述べた。



「市民の安全が第一」を優先し、総決起大会を中止。



去る、2月28日に予定していた遠藤じょうじ後援会総決起集会は、前日に発生したチリ地震の影響で、三陸沿岸地域



に大津波警報が発令されたため、後援会は市民の安全を優先し中止の決定をした。出席を予定していた達増知事は県

地域の民主党 畑こうじ衆議院議員 VS 遠藤じょうじ

久慈生まれのお二人ですが、故郷への思いを聞かせて下さい。

畑 特別な思い入れがありません。生まれてから、ずっと青春時代を過ごして、今も暮らす久慈市です。久慈の山、川、海そして、人の温かさを忘れたことはありません。

遠藤 久慈は切っても切れない故郷であると同時に、私を育ててくれた所でもあります。その久慈になんらかの形で恩返しをしたいと考えています。

今、久慈市に何が一番必要だと思いますか。

畑 創造する自信と勇気だと思っています。今まで国と地方の関係は国の指導の元におこなわれてきました。これからは、地域の事情を考慮し、優先順



位を決めた地域づくりが求められます。声を上げ、しっかりとしたビジョンを持つことです。

遠藤 久慈には素晴らしいものがたくさんあります。しかしながら、残念なことには、その価値に我々市民が気付いていません。官民一体となり地域の宝を有効活用する施策を講じることだと思います。



畑 国のシステムが政交代により大きく変わり、そしていま、様々な改革がスタートします。地方自治においては、地方分権、地域主権が益々推進されるでしょう。このことを踏まえた地域構想、人材育成を早急に確立しなければなりません。国は地方のことは地方に任せることで、地域の活性化をサポートする政策を実現します。



遠藤 国と地方は密接な関係にあることは周知の事実であります。ヒモ付きの補助金などで地方は独自の面を出しづらく、民主党政権の公約であれば、地域に合った予算執行が可能になります。国政に望むことは、より一層地方の事情を考慮したシステムにしたいと思っています。

Profile

昭和28年11月16日、久慈市十八日町に牛乳屋の息子として生まれた。市立久慈小学校、市立久慈中学校、県立久慈高等学校で学び、中央大学法学部を卒業後、昭和52年、志を抱き岩手県庁に入庁。久慈地方振興局総務部企画振興課長、社会貢献活動促進監、県住宅供給公社、県土地開発公社総務部長、青少年・男女共同参画課総括課長などを歴任し、平成21年、県南広域振興局北上総合支局長を最後に退職。
家族は、両親、妻そして、二人の男の子。趣味は男声合唱という、誠実、明朗な56歳の男である。

畑 国民民主権の政治、すなわち真の民主主義の確立であり、国民の生活を第一に考えた政治にします。官僚が主導してきた政治から、我々議員が国民の声を真摯に受け止め、国会議員自らが政策を立案することで、国のすべき役割と地方の役割分担をさらに明確にし、国民が安心して暮らせる日本、そして地域を創造したいと思っています。



それでは最後に、今後の抱負をお願いします。

遠藤じょうじ氏の政策を応援します。

人材育成の展開

郷土を担う豊かな人材育成のために、産み育てる環境整備の充実を図ります。各分野においての人材確保の支援体制を早急に確立し、人材が人材を育てると共に、希望と目的をもてる地域をつくり出します。

医療福祉介護の充実

地域の医療福祉介護の充実には、現行のシステムにプラスαが必要です。医師、看護師、介護士の確保を含めた久慈市独自のシステムを構築し、総合サポート体制を確立します。

教育環境の充実

国の施策を最大限に活用し、県と市の連携による教育制度を確立し、学校、家庭、地域、企業、団体、行政が総合的に教育や、スポーツ、芸術文化をサポートする体制を構築します。

農林水産業の活性化

県北沿岸の基幹産業である農林水産業の振興を図ります。国、県の制度を活用しながら、地域が自立できる農林水産経営を図るため、相互連携による積極的な支援体制を構築します。

産業振興と雇用創出

農林水産工商連携による、生産、加工、流通、販売の一体的な取組みを強化し、経済的に安心して暮らせるよう、総合的な支援対策を講じます。

地域資源の活用

市民とともに地域資源を見直し、情報発信を強化します。また、町内会、NPO、団体などが行う自主的な地域づくりや活性化を支援する制度を創設し、市民協働の街づくりに積極的に取り組みます。